大牟田市立平原小学校

1　本校のＥＳＤの特徴

本校は，「地域とのつながり」をキーワードに，消費者教育・福祉教育について継続して取り組みを進めてきている。昨年度は「平原スマイルショップ」でオリジナルのエコバッグを作成し，地域や保護者に購入していただいた。今年度も直接的なかかわりが難しい中，地域とつながるためにできることはないかと考えて取り組みを進めてきた。

また，中国大同市第十八小学校と長年交流を続けており，国際理解教育推進事業を活用したゲストティーチャーを招いての学習や正月・春節を祝い合うプレゼントの交換を行っている。

2　ユネスコスクールとしての活動・全体計画

	福祉教育	消費者教育	国際理解教育
１年	たのしもうあき（生活科） ※幼保小交流	さあみんなででかけよう（生活科） ※地域や公共施設への関心	第十八小学校への新年のプレゼント制作 と外国の正月についての学び
２年	つくろうあそぼうくふうしよう（生活科）※異学年交流 レッツゴー！町たんけん（生活科）　※校区の店を通した消費生活の理解		
３年	つながり合う心Ⅰ（総合） ※高齢者福祉について学ぶ	まちではたらく人々（社会科） ※ものの選び方や買い方等	
４年	つながり合う心Ⅱ（総合） ※障がい者福祉について学ぶ	リサイクル大作戦（総合） ※持続可能な消費	
５年	伝統を引き継ごう（総合） ※卒業生や新入生との関わり	食料生産，工業生産を支える人々（社会科） ※生産と消費の問題	
６年	※各行事等を通した下級生との関わり	くふうしよう朝の生活（家庭科） ※商品の安全と危険の回避	

3　特徴的な活動事例の紹介

（１）平原スマイルプロジェクト

昨年度の「平原スマイルショップ」でのエコバッグづくりを受けて，本年度も地域とつながるプロジェクトを立ち上げることとした。そのゴールの一つとして例年行われている（昨年度は中止）「平原フェスタ」での児童主体のブース設置などを目指した。

①児童会を中心とした農作物の栽培

当初，フェスタでの販売を計画していたが，フェスタは中止となった。しかし，地域とのつながりを保つためにも栽培して配ろうということにした。企画委員と実行委員を中心に話し合い，カボチャを栽培することに決定した。中庭を耕した「平原スマイル農園」に，種からを育てた苗を植えた。その後，水やりや草取りなどはボランティアを募りながら，全校で関わっていった。大変な苦労の中，栽培を進めたが収穫できたカボチャはそれほど多くはなかった。校区の公民館に配布す

育てた野菜を子ども食堂へ

るには数が少なかったので，考えた末，子ども食堂で使ってもらうことにした。特別支援学級で栽培していた大根といっしょに「平原ふれあいサロン食堂」に持っていき，カレーの材料として使っていただくことができた。

②各学年から地域へ

各学年からは，学習の成果を公民館に届けた。生活科で育てたサツマイモやそのつるを使って作ったリース，理科の学習で育てたアサガオやオクラの種，ほうき草で作ったほうきなどをメッセージとともに各学年で袋詰めなどをした。６年生は，修学旅行での学びをリーフレットにまとめ，平和について考えるメッセージを送った。これらの品を公民館ごとにバッグに入れて届けた。

メッセージを込めた各学年の作品

（２）国際理解に係る活動

中国大同市第十八小学校とは，例年，正月の時期に合わせてお祝いのカードやプレゼントを作成し，送り合っている。３年生では，外国の文化について学習するために，「国際理解教育講師派遣事業」を活用し，中国，韓国の方をゲストティーチャーに招き，新年を祝う行事などについて話を聞いた。日本の正月についてもおせち料理などについて調べ，講師の方に紹介した。

中国の仲間たちへ

（３）校区清掃

今年度も地域と合同での清掃活動を実施することができなかった。そこで，児童のみによる公園の清掃作業を行った。縦割りグループで校区内の公園に出かけ，除草や清掃を行った。自分たちが使う公園をきれいにするというだけでなく，普段の使い方も考えることができた。また，１カ所は，活動の必要がないほど整備されていた。おそらく近所の方のボランティアと思われる。子供たちは，地域でも校区の美化に取り組まれているということを実感していた。

公園の清掃に励む子供たち

４　本年度の成果と課題

○成果

・昨年度の取組をもとに，何をどのように進めていけばいいかと考えて，自分たちにできることを実践していこうとする意欲が高まった。様々な制約もあったが，「地域とつながる平原スマイルプロジェクト」として全校で取り組むことができた。

○課題

・さまざまな事情やコロナの感染状況等もあり，取組内容を変更することが多かった。次年度は，生活科や総合的な学習の時間などの指導計画を見直した上で，系統性と教科･領域の関連性を持たせたＥＳＤ推進を図っていきたい。